

町民の声を広報に

1月19日、安平町広報モニターに集まっていただき、「広報あびら」について意見交換を行いました。

町では、町民参加の広報紙づくりを目指し、平成19年度に広報モニター制度を導入。

表紙や記事の写真に関する意見、レイアウトの改善に向けた提言、取り上げて欲しいことなどを参考に広報活動に取り組んでいます。



自然に優しい有機農業

1月26日、早来小学校5年生を対象に有機農産物の普及を目的とした食育授業が行われました。

授業は、町内で有機農業に取り組む小路健男北海道有機農業協同組合長が講師を務めるが、土にも人にも優しい「有機農業は化学肥料や農薬に頼らない分、手間ひまがかかるが、土にも人にも優しい農業」と説明。

この日の給食には、小路さんが生産した長いもが使用され、みんなで美味しく有機農産物の味を楽しみました。



節目の10組織

1月21日、豊栄町内会に自主防災組織が誕生し、瀧町長から自主防災組織認定書が交付されました。

日ごろの防災活動や災害発生時の活動に期待される自主防災組織は、今回の交付により10組織となり、交付を受けた同町内会の谷口龍治会長からは、「今行っている見回りを継続し、防災だけでなく地域の輪をより強いものにしていきたい。」と今後の活動についてお話を聞くことができました。



(今月の1枚) ハヤキタユキダルマカイ

今月の1枚は、安平町の観光資源のひとつ、雪ダルマです。29年前「雪ダルマを観光資源に」と、突飛な発想を思いついた真保生紀代表にお話を伺いました。

作業は楽しく心を込めて

2年ぶりの雪ダルマ作りは、ときわ野球場の新雪を使用。現場では、次々と雪だるまが誕生する中、真保代表の饒舌なジョークもあつて楽しそうな雰囲気になっていました。

雪のない土地へ

取材した日は、12名で150個、前日は200個の雪ダルマを作成。

今年度作成した雪ダルマは、全て東南アジアからの旅行者のお土産品として提供されるということです。

なぜ東南アジアなのでしよう？

真保代表は、「雪が降らない地域は、雪への関心度が高い」ことに目をつけ、「北海道安平町のお土産にとど

まらず、安平町の認知度向上にも繋がる存在となつて欲しい」と雪ダルマへの思いを熱く語っていました。

最後は自分の手で

お土産として旅行者の手渡るときは、雪ダルマに目・鼻・口はありません。「自国に持ち帰り自分たちの手で付ける楽しみを味わってもらいたいから」とのこと。

今年は雪と縁のない土地に、色々な顔の雪ダルマがたくさん誕生しそうです。

